

日時：2025年10月27日（月）午前

場所：IDEC 1階 大会議室

研修内容：日下部先生による講義

概要：発展途上国における教育の問題について日下部先生が講義をしてくださいました。教育現場における格差や差別を解消してインクルーシブで持続可能な教育を目指すためにどのようなことが必要であり模索できるかを、研修員の皆さんと一緒に考えながら講義を聴いている様子が見て取れました。プレゼンテーションの途中には、実際にバングラデシュの小学校で生徒参加型の授業形態を導入した際の映像を見る時間があり、子どもたちが物語の役を各々が演じ、作品全体を主体的に捉える試みが行われていることを実感することができました。日ごろの授業では日本の学校と同じように、先生対生徒の図が一般的なようですが、動画の中では机を動かして教室の真ん中を囲むように配置し、動いたり喋ったりして授業が進んでいきました。先生から一方的に授業を受けるのではなく、生徒がアクティブに授業に参加する姿勢がよく理解できました。その後、15分ほどの休憩を挟んだ後に質疑応答の時間がありましたが、予定時間をオーバーするほど活発な意見交換が行われました。講義の最中も聴衆席から発言がたくさん飛び交ったり、笑いも多々生まれたりと全体を通して活発な講義でした。



日時：2025年10月27日（月）午後

場所：広島県立広島工業高等学校

研修内容：高校見学

概要：

本日、研修員は、広島県立広島工業高等学校を訪問した。同校は創立128年を迎える歴史と伝統ある工業高校で、県内の工業教育をけん引する拠点校として知られている。校内を見学する中で、教育目標として掲げる「専門的な知識・技術を活かし、柔軟な発想力と協働力をもって社会に貢献できる人材の育成」という理念が、学習環境や生徒の姿勢にしっかりと根付いていることを感じた。

特に印象的だったのは「県工・未来創造学習」という取り組みだ。1年次から自分の生き方を考え、2年次で学びをつなぎ、3年次には未知の課題に挑戦するという段階的な学習プロセスは、単なる知識習得にとどまらず、課題発見力や協働力を育む仕組みになっていた。また、電気科・機械科・土木科・建築科・化学工学科の5つの専門学科があり、それぞれの分野で高度な技術教育が行われていることも特徴である。

就職・進学の実績も非常に高く、令和6年度は求人社数1,815社、求人数3,114名と、卒業生一人当たり10社以上の求人があるという数字に驚いた。進学希望者にも幅広い選択肢が用意されており、専門性を活かした進路が確保されている。さらに、資格取得や部活動も盛んで、29のクラブが活動しているようだ。

訪問を通じて、広島工業高校は「なれそうな自分」ではなく「なりたい自分」を目指す生徒を育てる学校だと強く感じた。伝統を守りながらも未来を見据えた教育を実践しており、生徒たちの真剣な表情や活気ある雰囲気、ものづくりを通じて社会に貢献したいという情熱があふれていた。工業教育の可能性と、その魅力を改めて実感できた貴重な訪問であった。